

(1)

	起住しには相区てのを、	、に決、負さし府は簡の)、、合路 III くん た	市さ景態が相成。に力なる	して福、	印刷 和紙業KK
	新 春 雑 感 和 三 十 六 年 も、 あ わ た い し に 満 腹 感 の 伴 な し に 満 腹 感 の 伴 な し に 満 し に 、 あ わ た ぶ し い の に す べ て を 賭 け た 昭 合 に よ る わ た ぶ し い し に う で 過 ぎ 去 つ た の に い し い し に う で 過 ぎ 去 つ た の に い し い し に ち 、 あ わ た ぶ し し に り で 過 ぎ 去 つ た の に い し い し た 、 し た い し た 、 し し た 、 し た 、 あ わ た ぶ し し た い し た の し た の し た の し た の し た の し た の し た の し た の の 、 の 曲 り し た の の の 、 の 一 、 ち の し た の の 、 の し た の の 、 の 一 、 ち し た の の 、 の ち い ち 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の し た の の 、 の の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の し た 、 ち の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 一 、 ち の 、 の 、 の 一 の し た の の の 、 ち の た い ら 、 ち の 、 の て の 、 ち 一 の し た の う し た の う し た ろ の 、 の う し た の し た の し た の う し た の う し た ら し た の し た の し た の う し た の ら し た の し た の し た ち の た い し た ろ の ら し た の し た ろ し た の う し た の う し た の ら し た ろ の う し た ろ つ た の た 、 の ら し た ち つ た の ら し た の ら し た の う つ た の ら し た の ら し た ろ つ た の ろ つ た い ら し た の ろ の つ た ろ つ た の ら つ た の つ た ろ つ た ろ つ た の つ	当南部地区等に決定をしたる土地に決定です。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	な金 戦 し な な 戦 し ま し た ち で あ ち の 二 、 ち ち で あ ち 、 ち ち ち 、 ち ち ち 、 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち	大日寺と所屋の人育の厚一大山市 「「「「」」」」。 「「」」」。 「」」、 「」」。 「」」」。 「」」。 「」」」。 「」」。 「」」。 「」」」。 「」」」。 「」」。 「」」 「」」	頭春	理解下さいまして、ご協力 下さることを心から念願す るところであります。 なお私は今年、市民憲章 の徹底を図る市民運動に強 力な支援を致したいと思っ こそは、市 民憲章の真 よい都市 参願いた と思うから を願いた
2		速く進まん哉 (振興会長) (振興会長)	っかくらぬが 思ふします。 新屋消防出張所 光 で も の か い ら の か い ら ぬ の し ま の の 一 層 の の の に の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の の 一 層 の の 一 層 の の 一 層 の の 一 層 の の 一 層 の の 一 層 の の 一 層 の の 一 層 の の 一 層 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の 一 唇 の の の 一 唇 の の 一 の の の 一 唇 の の 一 の の の 一 の の の 一 の の の 一 の の の の 一 の の の 一 の の の 一 の の の 一 の の の 一 の の の 一 の の の 一 の の 一 の の の 一 の 一 の の の 一 の 一 の 一 の 一 の の の の の の の 一 の の の 一 の 一 の の の の 一 の 一 の 一 の の の の の 一 の の の の 一 の の の の の の の の の の の の の	な架とをの当 じ、	Sand and and and and and and and and and	しまして、 しまして、 しまして、 年頭の らで あります。 が の ら で あります。 の ち で あります。 の ち で あります。 の ち で あります。 の ち で あ り ま し な よ ら で あ り ま し た か に わ い お り ま う 心 ち に の ち し て う い う の ち の ち の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
	い如本的積間 合八だ目 合八だ目 か如本 前本 前本 部本 部本 の 前本 部本 部本 の 前本 部本	地付み次なの程足運問方けしにか限でと動題	安記所廃止反対の ない しての 工事に しての 二 での 一 での 二 での 一 での での 一 での 一 での 一 での 一 での 一 での 一 での 一 での での での での での での での での での での	第二てる。 「第二に上水道 「第二に上水道 「第二に上水道 「第二に上水道 「第二に」 「第二二、 「二、 「二、 「二、 「二、 「二、 「二、 「二、	ま立ので、 すって した。 した。 した。 した。 した。 した。 した。 した。	備の新ご皆 と秋屋ざ様 1172

巨の

9

た

X

市

度溝る新大は段屋

一加完地西

不々は

人に後

わ々依援

信れのると

思

8

C

つりに交心

東

在

0 てた熱 市れさ Et +3 3 C 口に

OK

の日示導

ち

七題

号線足

る

に校

こも動はの

ケ

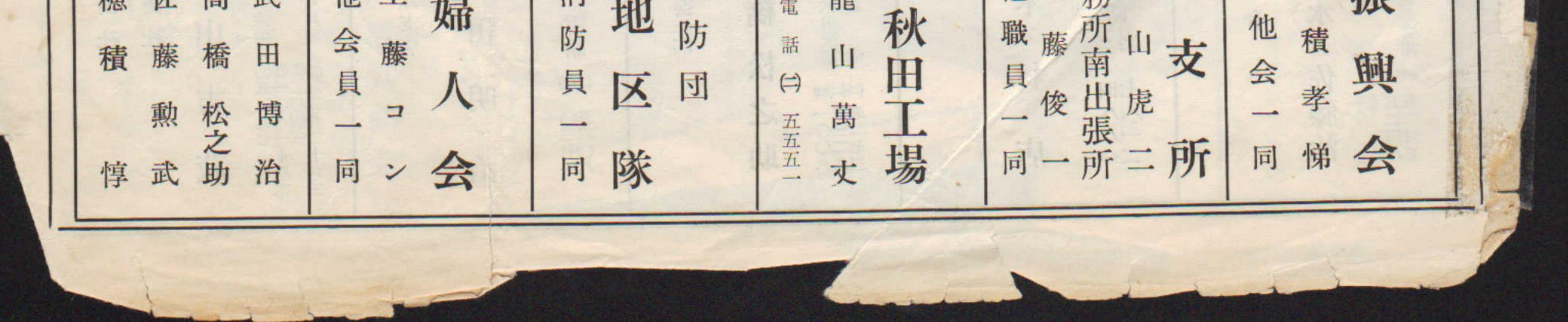
った

成た

蛇水の

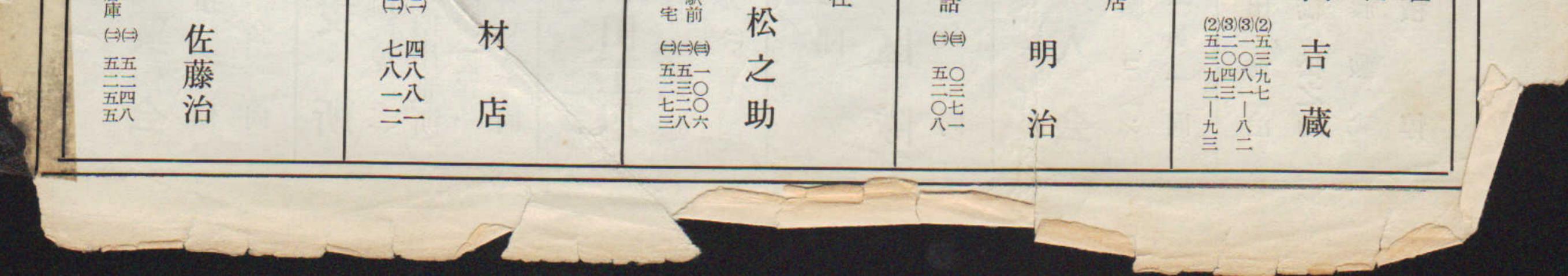
。口を一

を装き いに来号と剣れ線 学地難豊 又校区に岩 車新の屋本 さい 年 存 ロが水びたしに 不 す貢 頭 C と思 する虎虎 0 MARK TK - 浜地区を含む国道七- 浜地区を含む国道七 ts にあたつ 2 ts -統廃合。 区上水道の - 層悪い状態になり 改題 憲 る TRADE とにお目出し 0 善を要する必須 情興 + 公共 ろの 0 屋 その線 あ 如 なる有様で りま く頑張る所 次 T 不文多謝 す。 昭和37年 6 2 9 年 東北 秋田 秋 新 新 P P 日新小学校長 日新中学校長 新 新 T A 会長 T 田 パ A会長 市稅事務 会 所 支長所 会 工版稿長 屋 屋 屋 長 市 長 屋 長 ル 7° 消 穂 武 振 他 白 T 消 龍 佐 高 他 武 穂 婦 地 電 秋 他 防 防 積 会 話 藤 橋 田 藤 積 Ш



昭和37年(1962年)1月1日 新	量、	衆 報		第 11 号	(2)	
昭和35年度新屋振興会収支決算報告書 1. 收入総額 186,970円 2. 支出総額 138,533円 3. 差引 限額 48,435円 收入の部		御気附きにして離りましたのは随いの時代	ものである。 すいに、 ものである。 をは思わるいである。 は が の で あ の で あ の で あ の で あ の で あ の で の の で の の で の の で の の の で の の の の	東南、長り少な、 高校市部 で の の 存 置 限 行 に 及 び 、 又 も 、 県 市 で た の の 行 に 及 び 、 の の の で に の の の で の の で の の で の の の の の	暇年程各種陳情に追わ (回顧二)) (回顧二))	
項 日 予算額 決算額 増 減 附 1.過年度收入 42,040 32,600 △ 9,440 2.繰 越 金 46,055 46,055 0 3.寄 附金 71,856 64,296 △ 7,560 1世帯1ヶ月3円年30円 未收パク 4.雑 収入 1 44,019 44,018 素報広告32,800新年会費9,900 計 159,952 186,970 27,018 予金利子1,319 計44,017		4、30 新屋振興会総会を新屋支所で開催した。 4、30 新屋振興会総会を新屋支所で開催した。	4、4、1、1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年	大、9 新年祝賀会を 新屋振興会主人る活動 新屋振興会主人る活動	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
項 目 予算額 決算額 増 減 内 1.事 務 費 17,000 11,544 5,456 ○消 耗 品 費 7,000 3,580 △ 3,420 事務用品 ○通 信 費 5,000 964 △ 4,036 切手はがき代 ○項 務 手 当 964 7,000 2,000 事務用品 ○項 第 第 964 7,000 2,000 事務手当 2.会 資 費 40,000 15,901 △ 24,096 ○総 会 費 15,000 995 △ 14,005 ○税 員 会 費 25,000 14,906 △ 10,094 ○限 情 費 50,000 46,920 △ 3,080 陳情に要した車借上料及現地社	記	日本務局職した。 日地方法務局新	23 °会 9 情出 5 ド / 23 °会 9 情出 5 ド / を ° 新 市 新 市 東东 所 市 市 東京 市	日 す 市 定 前 常 二 高 校 形 に 二 高 校 形 に 二 高 校 形 で 一 部 屋 土 崎 洗 に の の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の の の の の の の の の の の の	7、10 7、10 7、10 7、10 7、10 7、10 7、10 7、10	
 4.素 報 費 45,000 33,520 △ /11,480 ○印 前 費 25,000 15,000 △ /10,000 ○福 集 費 20,000 18,520 △ 1,480 5.予 備 費 7,952 30,650 22,698 第二高枝負担金3,000 パルブラン 30,650 22,698 第二高枝負担金3,000 パルブラン 30,650 22,698 前 159,952 138,536 △ 21,417 取入支出差が残金48,135円は昭和年36度に繰越する。 	工場長銭別 ルプ工場殉 他260	。 7月前日前日本町、愛情の「日前」「「日前」「日前」「日前」「日前」「日本町」」「日本町」「「「日本町」」「日本町」」「日本町」」「日本町」」「日本町」「日本町	1 11、11、11、11、11、11、11、11、11、11、11、11、11	こ に 置 9 を 重 つ 促 新 手新い雄進新屋	 長、穂積会長富岡 秋田市長、石山新 我町存置方につい 	
- 新屋音頭	新屋音頭入選作	車部ド防の	火の用し 火の用し 「運動の助労者として左の 「「「「「「「「「「「」」」」」 「「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「 「 </td <td>ロート 新屋地区民生委 新屋地区民生委</td> <td>○ 12、5 本 5 本 5 一 12、5 本 12、5 本 12、5 本 12、5 本 5 5 本 5 5 本 5</td> <td></td>	ロート 新屋地区民生委 新屋地区民生委	○ 12、5 本 5 本 5 一 12、5 本 12、5 本 12、5 本 12、5 本 5 5 本 5 5 本 5	
頂き解散す。 「ホー学生徒、婦公室のはたいの人で、成児の 「「「「」」」」」 「「」」」 「「」」」」 「「」」」」 「「」」」」 「「」」」」 「「」」」」 「「」」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」 「 「」 「」 「 「 「	の月コも、雲のかげアレ雲のかげ	新加工	市住進会后成会期		日標に防火パレードントレードので援を得新屋無火災活動を行い。	

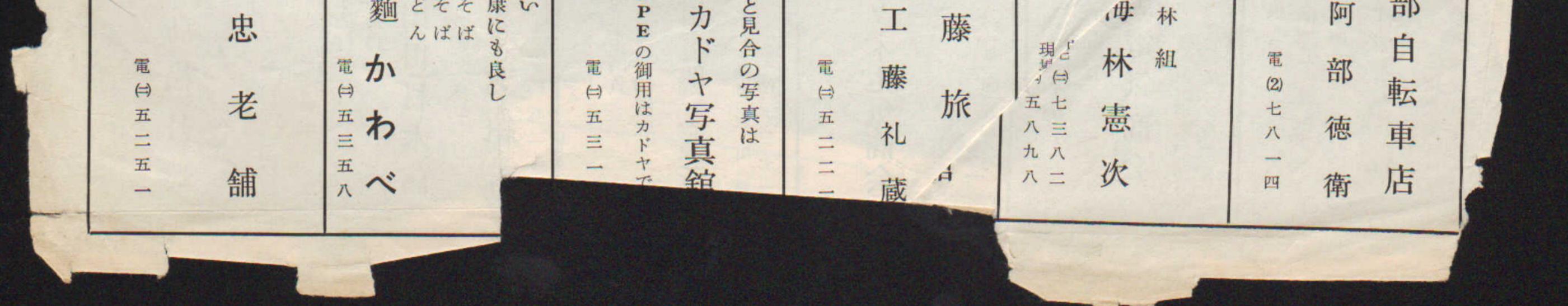
* 962年 昭和37年 共 共 秋 建 高 組合長 和 栄 田 社取 長役 武 松 社取
長役 築 農 市 支店長 紙 運 木 業 秋田銀行新屋支店 材 業 新 輸 材 田 協 電 株 屋 株 株 電 辻 電 -高 横 同 土 町 式 式 式 話 話 話 式 組 電話 農業倉庫 木 会 会 自 秋田駅前 橋 会 永 共和 共栄 合 電話 田 Ш 社 社 社 (=)



	(3)	第 11 号		新	屋	衆	報	昭和37年(1962年)1月1日
研究し得る。 参議力導はれる民力球大の 作とカして さ	出来自分の手許にひきつけ 今こそ健康な娯楽、趣味 存しある状態であちるからである。 であろう。 市の助成は削除さあるからである。 であろう。 市の助成は削除されたの容を把握出来る長所が「精神的栄養不良」に陥る ところが其の後	レろ不用だとする人もあ 場限りの、によつて、読書なんかは 点、唯一しろ不用だとする人もあ 場限りの、によつて、読書なんかは 点、唯一によって、読書なんかは 点、唯一に たれは前者より、じつく に読書に しん しょう した科 つては欠 たれ に 前者 より、じつく に 読書に しん しょう しん しょう しん しょう しょう しょう しん しょう	■新屋交庫の昇格強化を一 新屋交庫の昇格強化を一 新屋交庫の昇格強化を一 新屋交庫の昇格強化を一 に市立図書館の必要 この際、秋田市南 である。	WWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWW	しと存じ御同慶の至りに存じ を存じ御同慶の至りに存じ しと存じ御同慶の至りに存じ	単元、ヨンビザチト。 単元、ヨンビザチト。 単元、ヨンビザチト。 単元、ヨンビザチト。 単元、ヨンビザチト。 単元、ヨンビザチト。 単元、ヨンビザチト。 単元と谷どらこ至つにもの 年は次に来るべき経 中を迎り茲に輝しい昭和 で新屋地区に設置され、東 おります。ただこれ、 茂多の想出を蔵した三十 て空港、ゴルフ場が相次い するのは常識だと言	年頭の御族後間山萬丈。 「「「「「「「「「「「「「「」」」」」、「「「「」」」、「「「「」」」、「「「」」、「「」」、「「」」、「」、「	

	とあった。成款をでのらりれに。必市 のためでのためでのの方にの必定 をでのため、当てのためでのためでのでの を定した。 のためでのでのでのでのでの に、 のためでの での のためでの での の の の の の の の の の の の の の の の の の	始、来まりらまは般落於訳をわがに め新のしま非すなの発てで跳れ減は てらレてす常。か準展本あ返て少、	を取 存で で で で で で で で で で で で で の た の た の た の	
The second secon	のである。 ちない。 などの学習活動が行われてない。 で文化的学習活動が行われてなる。 のである。 のである。 をない。 で文化的学習活動が行われてない。 で文化的学習活動が行われてない。 のである。 のでのようした。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のでのたる。 のである。 のでの。 のでのたる。 のである。 のでのたる。 のでのたる。 のである。 のでのたる。 のである。 のでのたる。 のである。 のでのたる。 の のでの の の の の の の の の の の の の の の の の	寅の新年を迎へて すると同時に今年も世の人 があり乍ら殆ど無計画に ないで民族の自由を求めて する。 して、 して、 して、 して、 して、 して、 して、 して、	おります。此の酵母は今迄 な御後援を頂いていたものであります。 な御後援を頂いております。 な御後援を頂いていたものであります。 な御後援を頂いております。 な御後しております。 な御後も新の様なして報告して ないたものであります。 なのものであります。 なのものであります。 なのものであります。 なのものであります。 なのものであります。 なのものであります。 なのものであります。 なのものであります。 なのものであります。 なのたかで ないたものを原料 として なの た の た の ち た た た た の ち た た た た の た の 長 に 世 か た の た の 長 に 世 か た の た の 長 に 世 か た の た の 長 に 志 の た の ち た の た の ち た の ち た の た の た の た の ち た の た う た の た う た の た の た の た の た の た ち た の た ち た の た ち た の た ち た ち た ち た ち た ち た ち ち ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち ち た ち た ち ち ち ち た ち ち ち ち た ち た ち ち ち ち た ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち た ち た ち ち ち た ち ち ち ち た ち ち た ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち	
		をきそい、欲望の力の争いとして美しく実った。表面の大祭典は秋田にものためである。まであり、なったの人間の大祭典は秋田にものためであり、なったの人間の大祭典は秋田にもの大祭典は秋田にもの大祭典は秋田にものためであり、その大祭典は秋田にもの大祭典は秋田にものたの人間の大祭典は秋田にものの方を行った。まであり、その大祭典は秋田にものの人間の大祭典は秋田にものの人間の大祭典は秋田にものの人間の大祭典は秋田にものの人間の大祭典は秋田にものの人間の大祭典は秋田にものの人間の大祭典は秋田にものの人間の人間の大祭典は秋田にものの力の方法であり、彼望の力の子		
-	にか、そるし秋が央にる会央事経? 備らるの新いたの一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次である。 にか、そのしていたので、他子子では「「「「」」の「「」」の「「」」の「「」」の「」」の「」」の「「」」の「」」の	をつてもと思ふ。これで戦切と云を見ていた。 本での して が に 一回 と 二 に 一回 と 二 に た の 二 に た し に 素 た に た し に 素 た に た し に 素 た に た た た た た た た た た た た た た	していたたいれていた。 では、 「「「「」」」では、 「」」で、 「」、 「」で、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」	

玉 午 質 4 和 37年 昭 962年 2 9 綜合食品店 生鮮疎菜果実類その他 ハキモノ 萬 梁田商事株式会社 加 石 小 野 次 梁 石 Ξ 履 の御用は 松 加 田 野 電新 呉 友 電台五 電 (2) 電 電愛 電 (2) 屋 (1) 五三六四 (=) (=) 五 喜 勇太 物 角 商 商 Ŧi. 服 五 Ŧ. 4 中 11 III = = Ξ -----___ ----表 五三) III q Ŧī. 24 事 友 店 店 店 郎 郎 屋 六町 ŦĹ -貸カメラDPEの御用はカドヤで 専人 門物 吏 御婚礼と見合の写真は 石 工 茹 阿 東海 0 部 ,唯 麵 阿 林 T 忠 藤 現より 林 組 部 電



	昭和37年(1962年)	1月1日	新	屋	衆 報	· ·	第 11		4)	1
II.	ッ連は国土が広いせ マまですのをもつて、 売行機で、 汽車は国土が広いる。 どうので、 人間 いる。 どこにゆく している。 どこにゆく している。 で、 どう で、 だ している。 で、 た で、 た で で 、 汽車はのろい し、 し、 た い し で 、 売車 は しの の の た の で 、 売車 は の の の た し し 、 に 中 は の の の た し し 、 に 中 は の の の た い つ に ゆ く し 、 に 中 は の の の た い つ た の で 、 う 花 し の の た い つ た い つ た い つ た に ゆ く う だ い つ た い つ し い つ し い つ し い し し し し し し し し し し し し し	てきた。 てきた。 てきた。	ソ連への イリン親善文化経済 なはこの夏、約一ケロ	、風さえ島加 風の境に上げ、 ので、	り、なっていた。 「「「」」の し、 になる し、 になる し、 になる し、 にた にた にた た で る る の で に た で に た で る も の で ま れ し り に た に た い る も の で ま れ し う で お れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い お れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ う い で あ れ し れ た こ し っ で あ れ 、 れ う い で あ れ し れ た こ し っ で お れ し れ た こ し に こ し い た い た こ し い た こ し い た こ し い た こ し い た こ い で い の っ の で あ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	Marking Participation (1997) A C F C F C F C F C F C F C F C F C F C	る。私が新屋へ来てんたりのではなっている。私が新屋へ来ていることながらなかたる。しかし毎年繰れるのも私だけではなるのも私だけではななかった自分を深く	中の暮になるといつのないだろう。しか	原感	
	試験に落ちるとやした。 その学に入つて大月三下 あるという社会主体 ででは、 ででは、 ででは たった ででは たった ででは たった ででは たった に応じ 能力 に 応じ 能力 に 応じ 能力 に 応じ に た けれ に 常 に な い う れ し た に た に 能力 に た に た い う れ し た に た に に に に に に に に に に に に に	国柄だけに、男女のの運転手、アる。船の東北県で働いている姿が眼気、男女のの運転手、アス、同一労働同一番、大半の現場で働いている姿が眼気のの運転手、アス、同一労働同一番、な性である	た節の「旅」得	· ○完平田 :	8はるて所世。のり意:	し、派に運営したい。 いくしんでもおわかりと思う。 たていても、あとをおっえていても、あとをおったいでもおわかりと思う。	ことであることが昨年、 くる年を計画を立て進 の成功はおよびもつかれていたように、	られの仕事をしながら最 である境遇のもとにそ であるであるのである	ることが出来たこ とであり、 なたことであり、	
	差 落ちていない街路のベッ だ く。又娯楽でおりたいない街路の だ しのでないと開かけて本を読んでい に 劇場、サーカス劇場によく 服 がよく 家立で音楽を楽しむる野 の に なる。	強もよくする。ごみ一 いうな等も現在七時間、こ のて差があるのは止む たかくよく働く にかくよく働く にかくよく働く にかくよく働く	のが当然だといつた考 者とない者とでは差の いもらえない。能力の 日二万円	A 維 鎖日二線(即平町) 8 組 渋谷五級(中表町) 遂げた。	繰んげた結婚 戦なげた結婚の の加 和 大会が新 馬 二 月 七 日 、 秋 ら の 加 素 大会 が か ら の 加 素 大会 が 新 馬 二 月 七 七 日 、 秋 ら の 加 素 大会 が 新 馬 二 月 七 七 て 新 か ら の 加 素 大会 が 新 馬 二 月 七 七 日 、 金 が か ら の 加 素 大会 が 新 馬 二 月 七 七 日 、 金 が か ら の 加 素 大会 が 新 馬 二 月 七 七 日 、 金 が が か ら の の 加 素 大会 が か ら の の 加 本 大 会 が 新 馬 二 の の の の の の の の の の の の の	新屋の中でも不良な児 小さい小学生をおどし	のい事事になるのである。	との仕事の面でも必要なもの	る こう言うことはすべての人て ない状態だったのであって ない状態だったのであって	
Just -	国五我員に一 い我し し名々もは行 し々て たいの各自二こ、はも	女の服装は秋田の木内前 ない。 とおる人々とあまりかわ ない。 さこでも七ケ年計画の そこでも七ヶ年計画の たという声がき、追い たという声がき、追い たという声がき、な	それでも街を歩いているいソ連人民の姿であるいソ連人民の姿であるいソ連人民の姿であるいメリュームの姿であるのといた以上に		夜 田	お互様、子を持つようにて真剣な注意を持つように	です。です。	とかして居たり、特	うちの児は決	-
	1962	2年 人	Ę۲.		Ĩ	- 1	四和37		The second	A LA
	シキシマ醬油味噌酸 一 変 森九商 T (2) 5 2 4	店大	ッバキ 彦商店 T (2) 5 2 5		▶ 山本	(造元) 普油店 :利助 5301		醬油釀造 高多茂 高橋多茂 T (3)0 2 T→(2)5 0	商店 次郎 47	7
	味噌醬油醸造元 (山葉 山菜	商店 集 善治		^{魯油} 函店	御婚礼仏事用 御料理折詰住 江戸前寿し 往れ T(2)53	曲し	稲	料理仕出 i 7 T (2) 5 2 3	苛	1 all
	頑固なカゼにも即効的偉力 エスピレチン内服液 新屋 薬 局電目九七〇二 本店ヒロコージ薬局電日四五九一	a) 5216	糖積 医院	崖婦 人科	歯 工 和 工藤忠 利 王 藤 忠 利	電台六八八五	歯 堀 科 部 医 院	1日 清	小児科 西科 医 院	
	ニニ ステンレス加工 加賀ブリキャ リキャ	コロンビア シャーノアン 電化品は 新屋別当関 (2)ニスニ九	電新屋中 七二町	佐々木電気商会	三菱電気ストアー 電灯電力工事請負 電 (2)五三七一 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	をふとん・貧ふとん	杉山田材木店	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	高島松月堂	Y
		-	+	7		-	-			

P

1

1

MURANAN NA

1